

子どもたちの「新しい生活」を支える

——指導員からのアドバイス

4月、学童保育・学校では、子ども・指導員・保護者それぞれが新たな出会いを迎えます。本稿では、新しい生活をスタートさせる子どもたちを支えるためのアドバイスを紹介します。

*指導員の方に話を聞き、編集部がまとめました。

子どもが小学生になると、行動範囲が広がり、行動の内容も大きく変化していきます。また、自分自身で判断する機会も増えてきますので、こま当たときには「こま当た」と言える、安心と信頼に支えられて過ごせることが大切だと思います。

小学校に通いはじめてから、「自分は学童保育へ行くけれど、おうちに戻る友達もいること」を知り、とまどうこともあるかもしれません。

学童保育に通いはじめる前に



子ども自身が学童保育へ通う必要性を理解できるように、事前に、「おうちの人が仕事をしている間、楽しく安全に過ごしてほしいから学童保育に通うこと」をていねいに伝える機会をぜひ設けてください。

また、小学校の先生にも、子どもが学童保育へ通っていることを伝えておくといいでしょう。

学童保育から家に帰る際には、お迎えを義務づけているところ、子どもだけで帰るところなど、地域や学童保育によって状況が異なります。また、習い事の対応などもそれぞれです。子どもだけで帰宅する（保護者のお迎えがない）場合には、「自宅から学童保育」「学童保育から自宅」「自宅から学校」、そして「学校から学童保育」までの道順を、子どもと一緒に歩いて確認することをおすすめします。

行きと帰りでは、道端にあるもの見え方が異なる（右・左）ことな

つづきは本誌をくらってください